

あきたの 地域医療通信

2016年1月 第23号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策室



大切な未来を救っていく ～小児科医療の魅力と医学生・若手医師へのメッセージ～

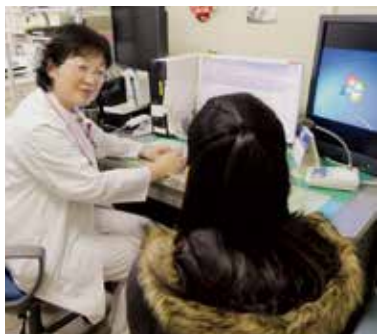
市立秋田総合病院で、小児医療の第一線で活躍している小泉ひろみ先生から、県内の小児科医療の魅力と医学生・若手医師へのメッセージを頂きました。

【小児科の魅力とは】

私が小児科を専門にしようと思ったきっかけは、医学生の時、友達が発足させた「障害児医療研究会」に参加したことでした。研究会といっても、病院や施設で子どもと遊んだり、キャンプに参加したりして、障害児と交流することが主な活動でした。その当時は、私自身、気持ちの波があったりして、落ち込んだこともありましたが、そこで子ども達に会うと救われることがあり、それが目指すきっかけの一つとなりました。

小児科の魅力の大きなところは、多くの場合、“子どもの病気が治る“ということです。現在、「子どもの心相談医」として不登校や摂食障害、発達障害の診療にあたることが多くありますが、自分が治療に参加したことで、学校に行けるようになったり、表情が変わったりするとやっぱり嬉しいですね。

子どもというのは、「未来」そのものですので、小児科は、大切な未来を救っていくところだと思います。少子高齢化の現在、子どもが少ないからといって、小児



科の需要がなくなるわけではないでしょうし、むしろ少ないからこそ一人ひとりの子ども（未来）に対して、大事に貢献していくことが一番の魅力ではないでしょうか。



市立秋田総合病院 小児科科長
小泉 ひろみ 先生

【プロフィール】

秋田県秋田市出身。東京女子医科大学を卒業後、東京女子医科大学、国立小児病院（現成育医療センター）の研修を経て、昭和62年から千葉市立海浜病院新生児科で勤務。その後、平成5年から地元で

ある市立秋田総合病院に赴任し、現在に至る。専門は、小児科学、小児神経学。近年は、日本小児科医会「子どもの心相談医」として活動している。

【子どもを診察するときに気を付けていること】

現在、「子どもの心相談医」としては、1人あたり30分の枠で診療を行っています。子どもは自分の気持ちを言えない場合が多く、お母さんの訴えに傾聴しながら、子どもの様子などを観察するため、初診に1時間30分をかけることもあります。子どもの声が聞ける場合は、診療しやすいのですが、そうでないことが多いのです。

また、私自身が初期の対応で大事にしていることは、常に、最悪な状況を考えるようにしていることです。たとえば、お腹が痛いということは「虫垂炎ではないかな」、吐いているとか血便が出ているということは「腸重積がないかな」といったように、一番嫌な疾患を疑ってみる作業を最初に行っています。外来や救急の患者さんの7～8割は、軽症または中等症で、患者数が多い割には、重症の子は少ないのですが、子

どもの同じような訴えの中で、必ず、緊急を要する重症の場合のことを常に考えて、診療をしています。

【秋田市の小児救急の取り組みについて】

秋田県成人病医療センター内にあった市立夜間休日応急診療所の機能を平成24年9月から市立秋田総合病院が継承しています。それまでの旧応急診療所では、検査やX P画像をとることも難しい状況でしたが、秋田大学小児科の高橋勉教授の提案を踏まえて、当院の中で、秋田市の小児科の初期救急診療を担えるよう、医療機能の強化を図りました。開業医の先生が交替制で当院において、小児救急を行うことには、当初は反対もありましたが、薬のアレルギーデータの管理や感染対策、医療安全なども考慮して、現在の体制となっています。

また、365日24時間とまではいきませんが、診療時間も拡げて、平日は24時間対応するようにしています。当院に移ってきたことで、機能と時間の面で充実したと思っています。

いつの時代も親御さんにとって、子どもが病気になると心配になるものですが、現在では、家庭内トリアージや小児救急電話相談（#8000）などが認知されて、親御さん自身も変わりつつあると感じています。

【若手医師・医学生へメッセージ】

当院には、幸いたくさんの研修医が研修していますが、指導する際には、三つのことを考えてもらっています。

一つ目は、診断に関して「what's else<something else>（他に何かないか）」ということ、二つ目は、治療に関して「what's wrong（何か間違いがないか）」ということ、三つ目は、診断と治療のどちらにもいえるこ

とで「what's new（何か新しいことはないか）」です。私も若いころは、可愛いとか病気で可哀相だとか、子どもに感情移入してしま



いがちでしたが、そういったことで、治療の手を緩めてはいけなくて、常にこの三つを念頭に置いて、診療にあたるように指導しています。

また、研修医には、「得意技をつくるようにしなさい」とも言っています。小児科の中にも、アレルギーや小児循環器、新生児など様々な分野がありますが、一般的な小児科診療をできる医師というだけでなく、「私は〇〇の治療ができます」「検査ができます」と言えた方が、自分の自信になり、今後の自分のためになると思うからです。

個人的には、どこでもやる気さえあれば、勉強はできると思っています。一人の医師が診察できる患者さんは限られています。一人ひとりを真剣に考えて診察すると、何人もの患者さんを診たと同じように勉強できます。また私自身、「子どもの心相談医」となって約10年になりますが、いろいろな講習会に参加したり、資格を取ったり、まだまだやりたいことがたくさんあります。

秋田県は、患者さんの症例数は少ないかもしれませんが、少ない中からたくさんのことを考えたり、学んだりすることは、自分次第で可能だと思います。秋田県で、大切な<未来>を救っていく仕事を一緒にしていただくことを楽しみにしています。

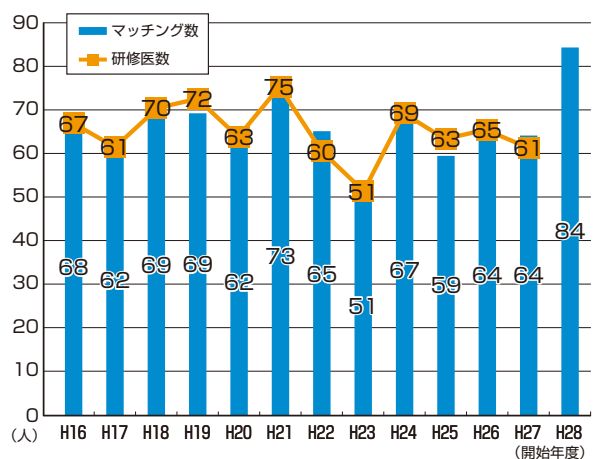
NEWS

来年度の県内の臨床研修病院へのマッチング数が過去最多を記録しました！

平成27年10月23日に医師臨床研修マッチング（研修医マッチング）結果が発表され、平成28年度に県内で初期臨床研修を開始する研修医は、84名の見込みとなりました。平成16年度に新臨床研修制度が始まって以来、過去最多のマッチング数であり、昨年度からの伸び率も全国第2位という結果となりました。

研修医の確保に向けて、県と臨床研修病院が連携して行っている様々な取り組みや秋田大学医学部における地域枠の拡充、早期からの地域医療実習の実施などが、着実に医学生に伝わった結果だと思っています。この結果に満足することなく、初期研修の場として秋田県内の病院が選ばれるように、今後も取組を強化していきたいと思っています。

【医師臨床研修マッチング数と研修開始者数の推移】



TOPICS 全国各地で医学生を対象とした進路相談会を開催中

県では、県内で研修している初期研修医のネットワークを活用して、臨床研修病院と連携し、医学生を対象とした少人数制のグループ進路相談会を全国各地で開催しています。

病院合同説明会やレジナビフェア等と違い、県内の指導医や研修医の先生方とじっくり、気軽な雰囲気でお話できる場となっています。

今年度はすでに東京都、福島県、熊本県、岡山県で開催しておりますが、今後も各地で開催する予定です。情報については、随時HP等でお知らせいたしますので、興味のある方へご連絡下さい。



熊本進路相談会の様子 (H27.7)

イベントカレンダー

開催月日	名称	対象	場所	お問合せ先 (団体名/電話/FAX)
2月	6日(土) キャリア・カフェ	医師・医学生・医療関係者	秋田大学医学部 本道会館 2F 研修室	あきた医師総合支援センター TEL:018-884-6430 FAX:018-884-6457
	8日(月) 心臓・腹部超音波検査講習会	秋田県内の初期臨床研修医・専門研修医(後期研修医)	秋田大学医学部附属病院 シミュレーション教育センター/内視鏡・超音波センター	秋田大学医学部附属病院 総合臨床教育研修センター TEL:018-884-6427 FAX:018-884-6454
3月	6日(日) レジナビフェア 2016 in 福岡	医学生	マリンメッセ福岡	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883
	12日(土) 岩手県臨床研修合同説明会(盛岡市)	医学生	岩手医科大学附属循環器医療センター	
	20日(日) レジナビフェア スプリング 2016 in 東京	医学生	東京ビッグサイト	
4月	9日(土) 新医師のための地域医療セミナー & 新医師歓迎レセプション	初期研修医	ホテルメトロポリタン秋田	秋田県医師会 TEL:018-833-7401 FAX:018-832-1356

秋田大学医局紹介

秋田大学大学院医学系研究科医学専攻
腫瘍制御医学系 胸部外科学講座
(旧第二外科 呼吸器外科 食道外科 乳腺・内分泌外科)

当教室は、外科学第二講座として1972年に開講されました。開講後45年を経て2013年から現在の秋田大学卒の南谷佳弘先生が第3代教授に就任しています。2015年4月から講座名が「胸部外科学講座」に変わりましたが、大学病院での診療内容は今迄と変わらず呼吸器外科、食道外科、乳腺内分泌外科です。秋田県内を中心とした胸部外科関連病院群と連携を取りながら呼吸器外科、消化器外科、乳腺内分泌外科の地域に根差した外科診療を行っています。学生、研修医、次世代の外科医の教育は私たちにとって非常に重要な使命と考えております。総合臨床能力の一つとしての外科学の知識と技術の教育、そして適切な医療連携ができる医師の育成を目標に毎日取り組んでいます。また専門医として立ち立ちできる知識と技術を習得させることにも日々取り

組んでいます。さらに、研究に関しても力を注いでいます。現代医学の発展は多くの先人の研究によって成り立っており、将来の医学の発展のためには研究が欠かせません。次世代の外科医療の発展は外科医の責任です。そのためリサーチマインドを持った外科医の育成を重視しています。論文発表数もさることながら、質の高い研究を目指しています。幸い研究資金も文部科学省科学研究費補助金、AMEDを初めとして、潤沢に確保しています。自由な発想で研究できる環境を備えています。

最後に学生諸君、研修医の皆さん。外科はやりがいのある科です。是非一緒に歩みましょう。



問い合わせ先

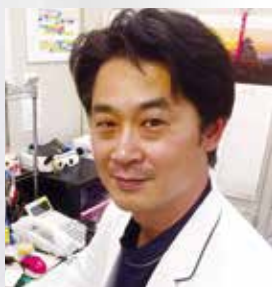
秋田大学医学部 胸部外科学講座 医局長 佐藤 雄亮
メールアドレス: yusuke@doc.med.akita-u.ac.jp
TEL: 018-884-6132
<http://www.med.akita-u.ac.jp/~geka2/index.html>
構成: 医局員数/14名

(呼吸器外科6名、食道外科5名、乳腺内分泌外科3名)

指導医メッセージ

由利組合総合病院
外科

平宇 健治 先生



当院で研修する先生には、「100点でなくてもいいから、困っている患者さんに自分ができることをやってあげよ

う！」という「for the patients」の精神を伝えています。この精神は、「相談すれば何とかしてくれる」「断らないで診察してくれる」「専門外でも何が出来るか考える」と将来評価されるような医師を目標としており、専門性の高い治療のみを追求する臨床研修病院とは一線を画するものです。

今どきは専門性を重視して専門外には手を出さない風潮がありますが、「泥臭いけれども、親身になって一生懸命患者さんを診ていく姿勢」を大切に、当院の伝統として継承していただければと思っています。古い価値観だと笑われそうですが、今も昔も、そして将来も『医師としての核になる信念』となると信じています。

もちろん、「きつと何とかなるから」という全く裏付けのない自信だけでは困ります。「for the patients」の精神だけではなく、診断や治療、手技の勉強も必要です！

研修医メッセージ

市立横手総合病院

飯塚 顕 先生

(東京医科歯科大学・茨城県出身)



生まれは群馬県、20年近くを東京で過ごしてきた私が、東北有数の豪雪地帯の横手市で初期研修をすることになりました。横手市に縁があったわけでも、特に深い理由があったわけでもありませんが、初期研修の約3分の1を終えた今、横手病院での研修医生活を満喫しています。220床程度の中規模病院ですし、研修医が数十名単位で集まる

ような基幹病院の派手さはありません。それでも、主に地元出身の先輩方が肩肘を張らずに黙々と地域の医療に尽くされている姿には頭が下がり、こちらのやる気も刺激されます。小さな組織だけに、医師はもちろん全てのスタッフに気軽に相談できる点も魅力です。研修医1年目はたった4人です。症例を奪い合うことなく、多くの経験を積むことができます。総じて、ゆったりした時間の流れの中で、おおらかなスタッフや患者さんに囲まれながら、余計なことを考えずに研修に打ち込んでいる気がします。都会の若い医師や医学生と話す機会には、是非当地での勤務を勧めたいと思います。

MESSAGE



地方独立行政法人秋田県立病院機構 秋田県立脳血管研究センター

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6-10 TEL:018-833-0115(代表) HP: <http://www.akita-noken.jp/>

1968年の開設以来、脳卒中を中心に研究を重ね、県民の皆さまから信頼される医療の提供を心がけてきました。2009年には県の直接経営から離れ「地方独立行政法人の県立病院機構が経営するノウケンセンター」に変わりました。センターの規模も時代の変遷とともに変化し、2015年には循環器医療の分野を一気に拡充し、病床数も126床から169床に増床しました。診療部門には脳卒中診療部、脳神経外科、脊髄脊椎外科、心臓血管外科、神経内科、循環器内科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、臨床病理部がありますが、脳卒中の患者さんは「脳神経外科医と神経内科医がチームを組んで最新の医療を提供している脳卒中診療部」で治療を行っています。学生実習や研修協力病院として臨床研修医を受け入れ、特に脳卒中医療を学んでいただいています。

現在、脳神経の治療チームと循環器の治療チームが一体となり「チーム・ノウケン」として県民の皆さまから一層の信頼をいただけるよう、脳と循環器の包括的な医療を提供する増築計画を進めています。

… お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号

E-mail: ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410